

枚方市立図書館

おすすめの 子どもの本 2021



枚方市キャラクターひこぼしくん

■2019年11月から2020年10月に出版された本の中から、
特におすすめする本を選び、子どもの本に関わる大人の方へ
お伝えするために作成しました。

図書検索は
コチラ →



■本の情報は、書名、著者名、出版社名、図書館での分類記号、対象年齢の順になっています。

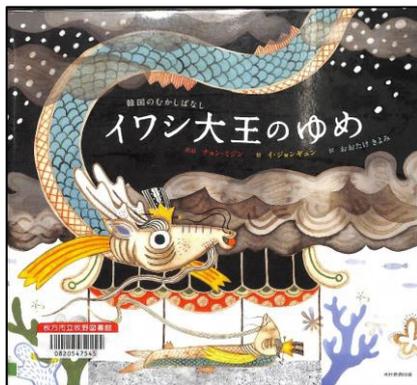
2021年4月発行 発行者：枚方市立中央図書館 電話 050-7105-8121 FAX 072-851-0962

えほん

イワシ大王のゆめ

チョン ミジン／再話 イ ジョンギユン／絵
おおたけ きよみ／訳 光村教育図書
エホノー・ドリーイ 【幼児～小学校低学年】

東の海に住むイワシ大王は不思議な夢を見ました。ヒラメに夢占いが良く当たるといふ西の海のハゼを連れてくるようにいっつけます。ヒラメは苦勞してハゼを

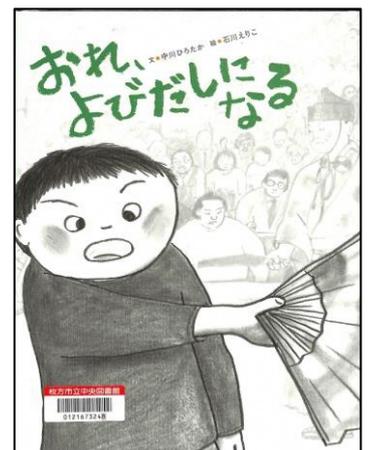


連れてきますが、大王からはお礼の言葉ありません。ハゼから竜になると占ってもらい、気を良くした大王は三日三晩の宴をしようとします。怒ったヒラメはイワシ大王の夢は焼きイワシになる夢だと叫びます。その言葉に激怒したイワシ大王はヒラメをひっぱたき、ヒラメの目は片方に寄ってしまいます。グラフィックな絵柄と生き生きと描かれた目で、魚の形の由来が語られます。韓国の教科書にも掲載された昔話です。

おれ、よびだしになる

中川 ひろたか／文 石川 えりこ／絵
アリス館 エホノー・イシ
【幼児～小学校中学年】

主人公は小さい頃から相撲が好きで、中でも一番好きなのはよびだしでした。5歳の誕生日に大相撲に連れていってもらった時、相撲部屋の朝稽古を見せてもらって「おれ、よびだしになる！」と決めます。



よびだしには太鼓の練習、土俵づくり、審判のお世話などいろいろな仕事があります。見開きいっぱい描かれた迫力のある絵から主人公の成長が伝わります。思わず「よびだしてカッコイイ！」と応援したくなります。相撲のよびだしに憧れていた少年が夢をかなえるまでを描いた絵本で、子どもから大人まで楽しめます。

かべのあっちとこっち

ジョン エイジー／さく なかにし ちかこ／やく
潮出版社 **エホソーエイ**
【幼児～小学校低学年】

絵本の見開きの真ん中に壁があり、右が『あっち』、左が『こっち』に分かれています。『こっち』には小さな騎士がいて「あっちには人食い鬼がいて、見つかったら食べられちゃう」と思っています。こっち側に水が入ってきて、だんだん増水していきませんが、騎士ははしごをのぼり、なんとか助かっています。騎士が溺れそうになった時、『あっち』の人食い鬼だと思っていた巨人に助けられます。そして、『あっち』の世界が平和であることを知ります。子どもたちに、どんなに恐くても壁を乗り越えれば、その向こうには素敵な世界が繋がっていて、明るい未来が広がっていることを伝えます。



かしたつもり×もらったつもり

かさい まり／さく 北村 裕花／え
くもん出版 **エホソーキタ**
【小学校低・中学年】

買ってもらったばかりの「恐竜図鑑」を、れんはなかよしのだいちに貸してあげます。ところがだいちに聞こえたのは「…あげる」というところだけ。だいちはもらったつもりになって、喜びますが、あとでれんに「返して」といわれてケンカになります。



ちょっとした聞き違いがきっかけで、ふたりはおたがい引くに引けない状態になってしまいます。それでも最後は歩みより、仲直りします。だれもが経験のありそうな出来事を、子どもの目線で描いています。

せんとてん

ヴェロニク・コーシー／著 ローラン・シモン／著
谷川 俊太郎／訳
かんき出版 **エホソーコシ** 【幼児～小学校低学年】

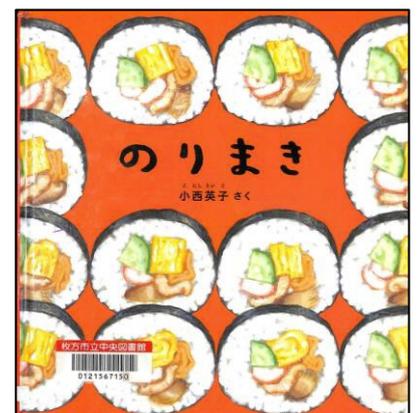
ある日、1本の白い線と2個の黒い点が出会い、遊びははじめます。二人でシーソーや飛行機のプロペラになります。飽きてしまいます。すると白い線と黒い点仲間を呼び、みんなでいろいろなものに変身します。いっぱい線と点で遊びは広がります。そしてたくさんの線と点で街をつくります。でも、何か足りません。そこで二人は世界中から色とりどりの友達を呼びます。線と点で何が生まれるか、色と色が混ざり合いどんな色になるのか、想像力がかき立てられる絵本です。



のりまき

小西 英子／さく 福音館書店 **エホソーココ**
【乳児～幼児】

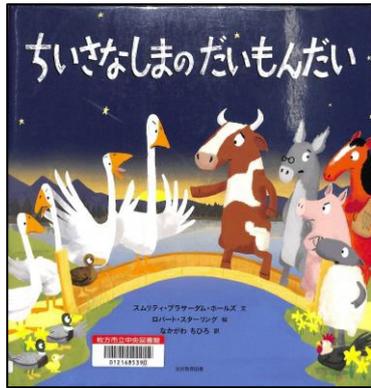
おおきなのりを用意して、おすしのごはんをひろげたら、たまごやき、きゅうり、えび、あなご、かんぴょう、しいたけをのせて、そうっと巻いていきます。おいしそうな「のりまき」ができあがりました。最後はのりまきをいただきまーす！今ではのりまきはスーパーにもコンビニにも売っていますが、自分の手でのりまきを作りたくなる、とっても美味しそうな絵本です。子どもといっしょにのりまきをつくってみませんか。



ちいさなしまのだいもんだい

スムリティ・プラサーダム・ホールズ／文
ロバート・スターリング／絵
なかがわ ちひろ／訳 光村教育図書
エホーンスタ 【幼児～小学校高学年】

ひつじ、うま、うし、ぶた、あひる、がちょう達は、動物村で助け合って暮らしていました。ところが、村はずれの小さな島に住むがちょうが、島に住むあひるとがちょうだけで暮らすと、橋を壊して他の動物たちとの交流を断ちます。しかし、快適な暮らしも最初だけで、次第に自力で島の暮らしを維持することに疲れていきます。そんなある日、小さな島を狐が狙います。あひるとがちょう達はどうなるのでしょうか。EU 離脱をテーマに書かれた絵本です。絵とお話を楽しみながら、「ちいさなしまのだいもんだい」について考えてみませんか。



みんなみんなおやすみなさい

いまむら あしこ／ぶん にしざか ひろみ／え
あすなろ書房 エホーンニシ
【幼児～小学校低学年】

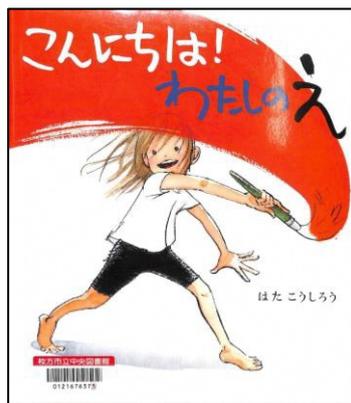
夜のまきばに、お月様が昇ると、子ひつじたちは、とっても眠たくなってきて、家族一緒に、ベッドでまあるくなって、すやすや眠ります。ふくろうたちも、子うさぎたちも、そして、人間の子どもたちも、お月様に見守られながら、眠りにつきます。細やかなペン画と水彩の淡い色彩が描き出す、柔らかな月の光に包まれた絵と、簡潔で優しい文が、静かな眠りの世界へ誘います。親子で、ゆったりと読みたい、おやすみなさいの絵本です。



こんにちは！わたしのえ

はた こうしろう／作
ほるぷ出版 エホーンハタ
【幼児～小学校高学年】

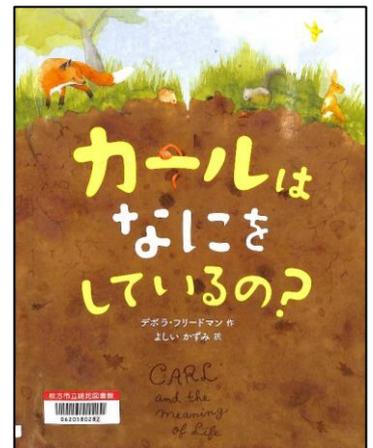
真っ白な紙に少女が筆をおろします。勢いよく自由にのびのびと描く姿に絵筆も喜んで動いてくれます。次にバケツに手を突っ込んで雨のように描きます。足の裏に絵の具をつけて歩くと色んな模様が現れます。「もっともっとかきたい！」と手も足も言います。のびのびした動きのある絵から躍動感が伝わります。身体をいっぱい使い、動き回り、楽しみながら絵を描いていくところが、この絵本の見どころです。読んでいて楽しくなる絵本です。



カールはなにをしているの？

デボラ・フリードマン／作 よしい かずみ／訳
BL出版 エホーンフリ
【幼児】

ミミズのカールは休むことなく土を掘っていました。野ネズミに「どうして きみは、そんなこと しているの？」と、たずねられたカールは土を掘のをやめ、答えを探しに出かけます。ウサギ、キツネ、リスなどに聞いて回りますが、答えは見つかりません。ある時、えさを見つけられないと泣いているオサムシに出会います。カールは土が岩みたいにカチカチなっていることに気がつきます。カールは、やらなくちゃならない事を見つけました。水彩のやわらかい絵で、ミミズに焦点をあて、自分の存在意義を考えさせます。



日本のものがたり

おひめさまになったワニ

ローラ・エイミー・シュリッツ／さく
ブライアン・フロッカ／え 中野 怜奈／やく
福音館書店 ヤサシイマハ 【小学校低・中学年】

娘の将来を心配する王様とお妃様はコーラ姫のよいところをほめるのをやめ、女王になるのに足りないところはないか、探すようになります。遊ぶ時間もなく「誰も私の気持ちをわかってくれない」と、コーラ姫は、名付け親の妖精に手紙を出します。



翌日、妖精から届いたプレゼントは緑色の大きなワニ！コーラ姫がお城を抜け出し自由を満喫している間、姫になりすましたワニですが…。自由奔放なワニに振り回されながら、自分の気持ちを大人にはっきり伝えることの大切さに気付き、自由を勝ち取るコーラ姫の姿にすがすがしさを感じます。姫とワニのデコボココンビと一日だけの冒険に出かけてみませんか？

大嫌いな君に、サヨナラ

いかだ かつら／著
PHP研究所 F-イカ
【小学校高学年～中学生以上】

一度会っているのにそのことを否定も肯定もしない転入生都波（つなみ）は嵐（あらし）を避け、クラスの誰とも仲良くなりません。都波への悪口の落書きを「嫌いだからやった」と嵐がいった事で増々お互いを避けるようになります。花火大会の日、母が倒れ、代わりに父の墓参りへいくと、また都波に出会います。転校が多く誰とも仲良くなれないでいようと振る舞う少女と、気持ちをうまく口にできない少年の交流と成長を描く物語です。



区立あたまのてっぺん小学校

間部 香代／作 田中 六大／絵
金の星社 ヤサシイマハ
【小学校低・中学年】

2学期が始まる日、目が覚めたらぼくの頭の上に小学校ができていました。名前は「区立あたまのてっぺん小学校」。教室ではキミドリ色の小人たちが授業を受けています。そんな衝撃的な出来事から始まる物語は最後まで目が離せ

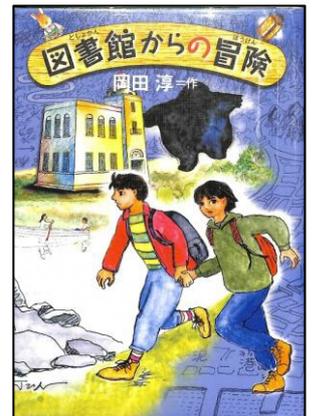


ません。最初はみんなと違う頭が嫌でしたが、「ぼくのふつう」と「他の人のふつう」は違って当たり前だということに気付き、「あたまのてっぺん小学校」を受け入れます。自分と違う他人・他人と違う自分を尊重する大切さに気付かせてくれます。多様性の中で生きる今の子どもたちに是非読んでほしい物語です。

図書館からの冒険

岡田 淳／作
偕成社 F-オカ
【小学校中・高学年】

小学6年の涉は大叔父の敬二郎さんから昔、柴野崎小学校の図書室に忍び込んだ時の不思議な話をよく聞かされてきました。この話を半信半疑で聞いていた涉は連休に自分も柴野崎小学校の図書室に忍び込みます。図書室からシバノザキ島にワープした涉は敬二郎さんが以前、この島に住んでいたことを知ります。得体のしれない生物に怯えて暮らしていた島民は、危険にあいながらも、最後は島に平和を取り戻します。キャラクターが魅力的で読後感の良い作品です。あなたも涉と一緒に柴野崎小学校の図書室から冒険に出かけてみませんか。



AIロボット、ひと月貸します！

木内 南緒／作 丸山 ゆき／絵
岩崎書店 **Fーキウ**
【小学校中・高学年】

小学4年の岡本栄太は未来科学研究所の10万人目の入場記念に、分身AIロボットを借ります。栄太はロボットにエイトと名付け、自分の部屋で親にばれないように共同生活をはじめます。嫌なことをやってくれるエイトに喜んでいた栄太ですが、だんだん不安になります。エイトの返却期限の日、エイトと別れたくない栄太は二人で家出をします。人間の友達以上に信頼関係を築いた栄太とロボットのエイトの友情があたたかく描かれた物語です。ロボットの友達が当たり前になる日がくるかもしれません。



ぼくのまつり縫い

手芸男子は好きっていいない
神戸 遥真／作 井田 千秋／絵 偕成社
Fーコウ【小学校高学年～中学生以上】

裁縫好きな針宮優人は放課後、教室でこっそりほつれたズボンを修繕していると見られ、被服部の助っ人にかりだされます。手芸男子だとクラスメイトには知られたくない優人ですが、被服部の手伝いをするうちに気持ちに変化がおとずれます。「みんなに理解してもらうのは無理でも好きなものを好きっていうほうがずっといい」という言葉に背中を押された優人は文化祭で自分の作った服を発表します。思春期の悩める少年の気持ちがさわやかに描かれた作品です。



ゆりの木荘の子どもたち

富安 陽子／作 佐竹 美保／絵
講談社 **Fートミ**
【小学校中・高学年】

ゆりの木荘は、百年以上も前に建てられた洋館を大改築した老人ホーム。なにやら不思議な魔法がかけているという言い伝えもありましたが、もう覚えている人はいません。ホームにはモリノさんやサクラさんなど6人のお年寄りが暮らしています。サクラさんが昔懐かしい手まり歌を口ずさんだ時、突然、玄関ホールの古時計の針が逆回りを始めました。すると時間が巻き戻り、87歳のサクラさんたちは10歳のこどもに…。サクラさんの記憶を頼りにみんなで元の世界に戻る方法を考えます。座敷童の名前を当てる謎解き要素もある、ほのぼのとした物語です。



はじめまして、茶道部！

服部 千春／作 小倉 マユコ／絵
出版ワークス **Fーハツ**
【小学校高学年】

幼馴染のナツメにまきこまれて茶道部に入部することになった陽介。憧れの顧問の先生のやさしい指導で、慣れない作法にあたふたしながらも少しずつ茶道の魅力に気付いていきます。親にも入部を内緒にするナツメの行動を不思議に思いながら保護者のクラブ見学の日を迎えました。そこでナツメの家族の秘密が明らかになります。茶道に関心がなくても、読み進めるうちに茶道の世界に引き込まれていきます。一見興味がないことにも足を踏み入れてみると楽しめることを教えてくれる物語です。



外国のものがたい

おじいちゃんとの最後の旅

ウルフ・スタルク／作 キティ・クローザー／絵
菱木 晃子／訳 徳間書店 **N-スタ**
【小学校低学年～高学年】

パパは乱暴で汚い言葉遣いのおじいちゃんを嫌っていますが、ゴッドフリードはおじいちゃんが好きです。心臓が悪いおじいちゃんと2人で病院を抜け出し、おじいちゃんとおばあちゃんが暮らしていた家に行きます。亡くなったおばあちゃんの作ったジャムが地下室に残っていることを思い出したおじいちゃんは、おばあちゃんの人生が詰まったコケモモのジャムを持って帰ります。病院に戻ってからも、おじいちゃんは人生の最後の日までこのジャムを少しずつ大切に食べます。2人のユーモアのある会話で、おじいちゃんの最期の想いを描いた心あたまる作品です。



引っ越しなんてしたくない!

カリナ・ヤン・グレーザー／作・絵
田中 薫子／訳 徳間書店 **N-クレ**
【小学校高学年】

ニューヨークの中心地から少し北のハーレム地区に住むバンダビーカー一家は、双子の姉・イーサとジェシー、真ん中の弟・オリバー、その下の妹のハイアシンズとレイニーという5人きょうだいの大家族。ご近所のみんなと楽しく賑やかに生活していましたが、クリスマス直前に突然、大家のビーマンさんから賃貸契約の更新を拒否されてしまいます。大好きなこの場所を離れるなんて絶対嫌!と5人は立ち上がりますが…。我が家を守ろうと5人が立てた作戦とは?個性豊かで愉快的バンダビーカーの子どもたちが好きになること間違いなしです。同シリーズに『庭づくりはひみつ!』もあります。

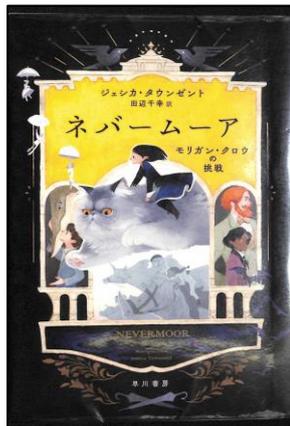


ネバームーア

モリガン・クロウの挑戦

ジェシカ・タウンゼント／著 田辺 千幸／訳
早川書房 **N-タウ**【小学校高学年～中学生以上】

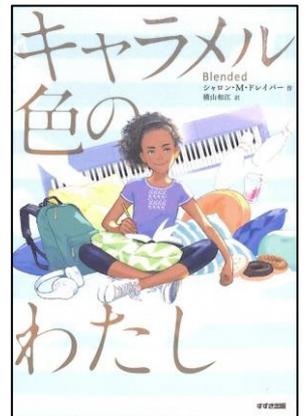
11年前の閏宵時に生まれたモリガンは呪われた子どもとして忌み嫌われ、次の閏宵時の日に死ぬことを運命付けられています。ところが子どもたちの後援者を決める入札に、未来の無いモリガンに指名が入りました。やがて閏宵時が始まり死が訪れようとする時、入札者の1人で輝かしき結社(ワンダラス・ソサエティ)のジュピーター・ノースが彼女を迎えにやって来ます。彼はモリガンを救いネバームーアへといざないます。死ぬことを運命付けられ居場所のなかった少女の冒険が始まります。そして彼女自身も知らない彼女の持つ秘密とは?



キャラメル色のわたし

シャロン・M・ドレイパー／作 横山 和江／訳
鈴木出版 **N-トレ**
【小学校高学年～中学生以上】

11歳のイザベラは黒人の父と白人の母が離婚したため、2週間ごとに父母の家を行き来する生活を送っています。二つの生活を送るイザベラは自分が二つに引き裂かれているように感じていて、どちらの家も自分の家とは思えません。複雑な状況におかれながらも、親友たちとの学校生活や大好きなピアノを楽しむイザベラですが、学校で起こったある事件をきっかけに、自分や両親の人種、日常にひそむ差別を意識するようになります。イザベラの等身大の生活を通して、身近に潜む人種差別に目を向けることのできる作品です。



ちしきえほん

いちご

荒井 真紀／さく 小学館
【幼児～小学校低学年】

チシキ 479

甘くておいしいいちごは、子どもにも大人にも大人気のくだものです。ケーキやジャムなど、口にする機会の多いいちごですが、そんないちごがどんなふうになっていくか知っていますか。この本では、苗からいちごができるまでの変化をリアルなタッチの絵で追っています。苗が秋から冬、春にかけて成長し、わたしたちのよく知るいちごの姿になるまでには、いろいろな変化があるのだとわかります。この本を読んだから、実物のいちごを食べる前によく観察してみましょ。きっと今まで気づけなかったことが見つかるはずですよ。



りんごだんだん

小川 忠博／写真と文 あすなろ書房
チシキ 625 【幼児～小学校低学年】

りんごは身近にある果物です。子ども達も大好きな果物ですが、りんごをずっと置いておくとどうなるか知っていますか？この本はりんごの 346 日間を記録した写真絵本です。りんごは「しわしわ」「ぱんぱん」「しなしな」「ぐんにやり」「ごつごつ」という過程を経て、最後は土にかえります。りんごを長期間観察することで今まで知らなかったりんごの新たな発見があります。腐ったりんごがどのような姿になるのか、親子で楽しめる写真絵本です。



知識の本

「走る図書館」が生まれた日

ミス・ティットコムとアメリカで最初の移動図書館車
シャーリー・グレン／作 渋谷 弘子／訳 評論社
016 【小学校低学年～小学校高学年】

「走る図書館」は、アメリカの司書メアリー・レミスト・ティットコムが考えついたアイデアです。女性の職業が多くない時代にミス・ティットコムは司書になり、住民のすべてが無料で利用できるワシントン郡公共図書館の開館に携わります。1905年に市街地から離れた農場に住む人たちにも本を届けるために、「本の荷車（ブックワゴン）」を走らせ、図書館に来られない人にも読書の喜びを届けました。写真が多く、ミス・ティットコムの功績が理解しやすい本です。枚方では自動車文庫「ひなぎく号」が2週間毎に市内のステーションを巡回しています。



わたしたちの家が火事です

ジャネット・ウィンター／文・絵
福本 友美子／訳 鈴木出版 289
【小学校高学年～中学生以上】

地球温暖化は何十年も叫ばれているのに、いまだに改善の兆しがありません。それどころか世界中のひどい山火事や南極の氷の融解など、事態は悪化しているようにさえ思えます。この作品はその現状に強い危機感を覚え、16歳ながら世界へ警鐘を鳴らすために行動している、スウェーデンのグレタ・トゥーンベリさんの姿を描いています。タイトルは、彼女のスピーチに由来します。地球温暖化は他人事ではなく、自分の家が燃えているのと同じくらい重大な問題であるというメッセージとともに、たったひとりのアクションでも世界を動かせるのだと教えてくれる本です。



琉球・沖縄

上里 隆史／監修 岩崎書店 291
【小学校中学年～中学生以上】

日本にあって他の都道府県とは異なる歴史的背景を持ち、独自の気候風土から独特の文化をはぐくんだ沖縄。衣・食・住や歴史、生物、自然、風習、信仰の現在の姿とそのルーツである琉球文化について紹介しています。

また太平洋戦争から戦後の混乱期の歴史についてもていねいに解説しています。「シーサー」「ゴーヤーチャンプルー」といったおなじみの沖縄的アイコンはもとより「基地問題」や「首里城焼失」といった沖縄の陽と陰を写真を豊富にわかりやすく紹介しています。沖縄を考えるための基本事項を簡潔に知ることができる1冊です。



集めてわかるぬけがらのなぞ

ゲッチョ先生のぬけがらコレクション
盛口 満／文・絵 少年写真新聞社 486
【小学校中・高学年】

私たちが小さくなった服を着替えるように昆虫やヘビは成長するときに身体の皮を脱いで脱皮(だっぴ)をします。皮を脱いで少しだけ大きくなるものや蛹(さなぎ)になって蝶になるなどまったく別の形に変化するものがあります。

この本では、いろいろなぬけがらを種類や部位別に集めて並べています。これらと比較することで、違いに気づきます。生きた昆虫たちの脱ぎ捨てた古着から今まで知らなかった生き物たちの秘密が見えてきます。



プラスチック星にはなりたくない!

ニール・レイトン／作・絵
いわじょう よしひと／訳 ひさかたチャイルド 519
【小学校低学年～中学生以上】

私たちの身近にあるプラスチック製品。その便利さから色々なものが作られています。しかし、「プラスチックがなぜ環境によくないのか」を説明するのは難しいことです。この本では、プラスチックが木の葉などの自然物に比べて長期間「生分解」されないことやマイクロプラスチックが食物連鎖によって、私たち人間が食べることになるなどの問題点を絵と文でわかりやすく説明しています。地球がプラスチックだらけにならないために、私たちにできることは何かを考えるきっかけにもなり、子どもも大人も楽しみながら理解を深めることができます。



オーケストラをつくろう

メアリー・オールド／文
エリーサ・パガネッリ／絵
いわじょう よしひと／訳 B.L出版 764
【小学校中・高学年】

オーケストラの演奏を支える指揮者と楽器奏者。それぞれどんな役割があり、楽器たちはどんな音を奏でているのでしょうか。この本では、ロンドン交響楽団(LSO)の音楽監督であり指揮者のサー・サイモン・ラトルが各パートの楽器をオーディション風景とともに易しく解説し、オーケストラの魅力を余すところなく紹介します。サイモンの解説とともにロンドン交響楽団の演奏が楽しめる付録CD付きです。それぞれの楽器が調和し、素晴らしい音楽を作り上げるオーケストラの世界をこの本を通して是非目と耳で味わってください。

